

poco a poco

パラグアイ便り 2024/08/01 Número18

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

【日本語スピーチコンテストへ】

7月27日に首都アスンシオンで“第35回日本語スピーチコンテスト”が行われました。日系・非日系を問わず、国内の日本語学校等で日本語を学習している児童生徒のスピーチを聞きました。原稿をすべて暗唱し、身振り手振りをつけながら堂々と発表する姿はとても眩しかったです。慣れない言語で話すだけでも大変なはずですが、それをすべて暗記し“自分の思いよ、会場中のみんなに伝われ・・・！！”と、熱を込めて話す姿に心を打たれ、思わず涙してしまいました。特に印象に残っているのは、非日系の生徒達の発表です。日本のアニメを大好きになったことがきっかけで、日本語を学習し始めた生徒。祖父の死をきっかけに立派な医者になろうと決心し、日本で勉強してその技術を故郷パラグアイに持ち帰るために日本語を学習し始めたという生徒。自分の幼少期には、他言語を学ぼうと思うようなきっかけも興味もありませんでした。他言語を学ぶことには数え切れないほどのメリットがあると感じています。子どもの頃から、それに良さや興味を見出すことができていることに、羨ましさを感じました。

パラグアイには多くの日系人（約10000人）が住んでおり、いくつかのコミュニティが存在します。日系人の多くは、日本語とパラグアイの公用語（スペイン語・グアラニー語）を話されます。しかし、人によっては、スペイン語の方が得意であったり、日本語をすらすらと話すことはできても文字を書くことは苦手であったりするなど様々です。日系人と交流を図るために、これまでにいくつかのイベントに参加したことがあります。そこで仲良くなった方々から聞いた話で印象的だったことは、『私の外見は日本人であり、日本語も話すことができるけれど、魂はパラグアイ人だと思っている。』や『パラグアイで生まれ育ったから言語も習慣もすべて習得しているのに、見た目が日本人であるため、どうしても疎外感や少数派であることを感じてしまう。留学で日本を訪れた際には、上手く日本語を話すことができず、また習慣や文化がまるで違うため、上手く馴染めなかった。日本人らしい顔をしていて日本語を話すのに、どうしてそんな異質なことをするのかと責められてしまったこともある。他の国から日本にやって来ていた留学生は、見た目が日本人らしくないおかげで“日本の常識や習慣や文化など、何も知らない外国人。日本語を上手に話せない外国人。”として、優しくサポートしてもらっていた。パラグアイにも日本にも、どこにも自分の居場所が無いような気がしてしまう。』などです。見た目や国籍に囚われず、個々を尊重することの重要性を再認識させられます。少数派の孤独さや心細さは、味わったことのある者にしか理解できません。親切なパラグアイ人に囲まれて生活できている私でさえ、それらを感じることは多々あります。誰もが自分の生き方に自信を持つことができ、それを認められながら生活できる世の中であればいいにと切実にそう思います。



【“友達の日”をお祝いました】

パラグアイには“友達の日”があります。大人も子どもも、それぞれの学校や職場で“あること”をします。それは、プレゼント交換です。しかし、ただ交換をするというわけではありません。それぞれの名前が書かれた紙を箱の中に入れて、くじ引きのようにします。くじを引いたら、引いた相手の名前を言わずにみんなの前でその人のことを褒めちぎります。その内容を聞きながら「あなたのことじゃない?」「それって僕のこと?」などと、みんなで誰のことかを想像しながら話を聞きます。美味しい物を食べながら、お互いを褒め合い認め合うその空間は、みんなの素敵な笑顔に包まれます。配属先の学校では、日中に子どもたち同士がプレゼント交換を行いました。私も夜は同僚と、そして翌日には特に仲の良い友人達で集まって行いました。いくつになっても、友達は宝です。



【ひとこと】

一年半お世話になった家から引っ越しをしました。日に日に劣化が進み、修理すらできないほど壊れていき、見た目も匂いもひどくなっていきました。しかし、大家さんをはじめいろんな人に助けをもらい、修理や掃除を毎日根気よく繰り返しながら愛情と手間暇をかけてきた大切な我が家でした。私の住んでいるような田舎には、貸し出し中の物件が無いに等しく、また我が娘として可愛がってもらっていた大家さん一家の元から離れたくないというその一心で、不便さやストレスを感じていないこととして、生活してきました。自分で物件を探しては家賃を交渉し、やっとの思いで見つけた新たな引っ越し先も、日本で生活と比べてしまえば、不便なことはたくさんあります。しかしこれまでの生活と比較すると、少しばかり改善されたことが、半端なく幸せだと感じるのです。引っ越しが完了するまでに、ここには書き切れないほど様々なドラマがありました。それはいつかのネタにとっておこうと思います。安心して生活ができる住居選びは本当に大切であること、一人暮らしであっても自分の生活を取り囲む人間関係が命であること、それらを忘れることなく、将来の住居探しに役立てようと思います。



～引っ越しの様子～
『日本にでも帰るのか?』と笑われました。
この様子を見た人たちが手伝ってくれました♪